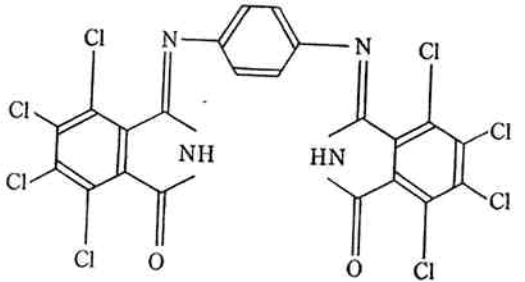


付

特許・実用新案登録一覧

—昭和58年度—

<日本特許> 75件

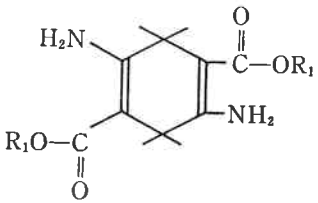
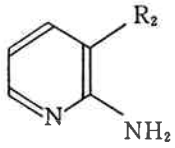
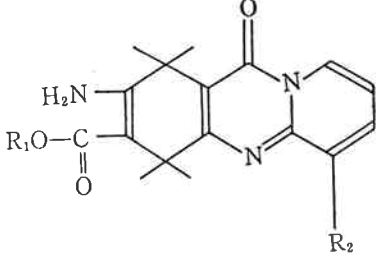
№	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
1	49-73404 (49. 6.28)	57-23690 (57. 5.20)	1129978 (58. 1.17)	流動式連続気相重合装置	反応室の内部に冷却管群を、底部に目皿板を設置し、かつ連続仕込および連続取出し装置を設置した塩化ビニルの重合または共重合用流動式連続気相重合装置。
2	53-82959 (53. 7.10)	57-21535 (57. 5. 8)	1130029 (58. 1.17)	黄色顔料の製造法	<p>構造式</p>  <p>で表わされるビスー(4・5・6・7-テトラクロロイソインドリン-1-オン-3-イリデン)-フェニレンジアミン(1・4)顔料で、且つ、X線回折図において、回折角度(2θ)、約9.7°及び、約25.2°の2個の強い回折ピークと約26.2°、約27.1°及び、約30.1°の3個の弱い回折ピークで特徴づけられる黄色顔料の製造法において、ビスー(4・5・6・7-テトラクロロイソインドリン-1-オン-3-イリデン)-フェニレンジアミン(1・4)のカリ塩を水で加水分解することを特徴とする方法。</p>
3	50-54736 (50. 5.12)	57-2644 (57. 1.18)	1132036 (58. 1.27)	活性炭の再生方法	パラジソプロピルベンゼンジハイドロパーオキシドの酸分解により得られた hidroキノンの脱色に使用した活性炭を、アセトンと、ベンゼンの混合溶剤に接触した後、該活性炭から該混合溶剤を揮散分離せしめることを特徴とする活性炭の再生方法。
4	49-60309 (49. 5.30)	57-27845 (57. 6.12)	1133204 (58. 1.27)	酸化クロムの製造法	塩化クロムまたは塩化クロム水溶液を酸化性炎に接触させてばい焼することを特徴とする酸化クロムの製造法。
5	52-66247 (52. 6. 7)	57-25022 (57. 5.27)	1133240 (58. 1.27)	4-ニトロソジフェニルアミン塩酸塩の製造法	4-ニトロソジフェニルアミンから4-ニトロソジフェニルアミン塩酸塩を製造するにあたり、N-ニトロソジフェニルアミンの塩化水素処理により得られる粗4-ニトロソジフェニルアミン塩酸塩を含む反応液にメタノール、エタノール、ジメチルホルムアミド、ジメチルスルホキシド、n-ブチルアミンのうち少なくとも一種以上の溶

№	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発 明 の 名 称	要 旨
					媒および水を加えて4-ニトロソジフェニルアミン塩酸塩を析出せしめ、その後これを分離することを特徴とする4-ニトロソジフェニルアミン塩酸塩の製造法。
6	52-66248 (52. 6. 7)	57-25023 (57. 5.27)	1133241 (58. 1.27)	4-ニトロソジフェニルアミンの製造法 (伊藤 幹雄, 木原 啓一, 柳原 忠久)	4-ニトロソジフェニルアミン塩酸塩から4-ニトロソジフェニルアミンを製造するにあたり、4-ニトロソジフェニルアミン塩酸塩をメタノール、エタノール、ジメチルホルムアミド、ジメチルスルホキシド、n-ブチルアミンのうち、少なくとも一種以上を溶媒中でアルカリに接触させることを特徴とする4-ニトロソジフェニルアミンの製造法。
7	52-139416 (52.11.22)	57-26818 (57. 6. 7)	1133294 (58. 1.27)	クロマトグラフィー用担体の製造方法 (清田 徹, 清水 明彦, 加藤 芳男, 橋本 勉)	多孔性シリカビーズに下記一般式で示される $(R)_3Si(CH_2)_nO-CH_2-\underset{\text{O}}{\underset{ }{CH}}-CH_2$ (R=OCH ₃ , OC ₂ H ₅ , n=2~3) る化合物を反応させて得たシラノ基およびエポキシ基を含む多孔性ゲルに核酸塩基および/またはその関連化合物を、溶媒中で炭酸塩の存在下で反応させることを特徴とするクロマトグラフィー用担体の製造方法。
8	50-129840 (50.10.30)	57-11717 (57. 3. 5)	1134149 (58. 2.14)	アンモニア性窒素含有廃水の処理法 (宮之原 勲)	廃水中のアンモニア性窒素を硝化菌を使用して硝酸性あるいは亜硝酸性窒素に変換するいわゆる生物硝化反応に際し、水酸化マグネシウムまたは酸化マグネシウムを存在させることを特徴とするアンモニア性窒素含有廃水の処理法。
9	47-91597 (47. 9.12)	55-21016 (55. 6. 6)	1135387 (58. 2.14)	クメンボトムからジイソプロピルベンゼンを回収する方法 (柳原 忠久, 深堀健太郎)	ベンゼンおよびプロピレンからクメンを製造する際に副生するクメンボトムないしはその処理物から m-および/または p-ジイソプロピルベンゼンを蒸溜回収する方法においてクメンボトムないしはその処理物にプロピレンを存在させるかまたはこれにさらにベンゼン、クメン、m-ジイソプロピルベンゼン、p-ジイソプロピルベンゼンおよびトリイソプロピルベンゼンの中から選ばれる少なくとも一つをさらに存在させてアルキル化触媒により処理する工程を行うことを特徴とするクメンボトムから m-および/または p-ジイソプロピルベンゼンを回収する方法。
10	52-48380 (52. 4.28)	57-21265 (57. 5. 6)	1135914 (58. 2.28)	ペプチド類の分離方法 (松下 駿, 生重 哲男)	架橋硬質デンプンゲルを充填した充填塔にペプチド類を含む溶液および溶離液を通過することによりペプチド類および/またはその他の共存成分を同時あるいは各別に分離することを特徴とするペプチド類の分離方法。
11	52-80483 (52. 7. 7)	57-28404 (57. 6.16)	1135917 (58. 2.28)	プロピレン重合用遷移金属触媒成分の製造法 (鈴木 祐二)	(1)ポリプロピレン粉末の存在下に、四塩化チタンを有機アルミニウム化合物で還元し、(2)得られた固体をエーテル類で処理し、(3)かく得られた固体を四塩化チタンで処理することを特徴とする、プロピレン重合用遷移金属触媒成分の製造法。

No	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
12	52-80484 (52. 7. 7) (鈴木 祐二)	57-28405 (57. 6.16)	1135918 (58. 2.28)	プロピレン重合用遷移金属触媒成分の製造方法	四塩化チタンを、脂肪族炭化水素、ポリプロピレン粉末およびエーテル類の存在下に、有機アルミニウム化合物で還元し、得られた三塩化チタンとポリプロピレンを含有する固体物質を40～80°Cの温度で四塩化チタンで処理することを特徴とするプロピレン重合用遷移金属触媒成分の製造方法。
13	52-7278 (52. 1.28) (溝部 毅, 杉森 正敏, 毛利 隆)	57-29417 (57. 6.22)	1137421 (58. 2.28)	二酸化マンガンの製造法	酸素を含む雰囲気中で焙焼した天然二酸化マンガン熱硝酸又は硝酸と硝酸以外の鉱酸との熱混合物および次亜塩素酸塩で処理することを特徴とする二酸化マンガンの製造法。
14	48-89660 (48. 8.11) (永野 峰雄, 鈴木 光明, 斉藤 道夫, 小坂勇次郎, 植村 勝, 鈴木 祐二)	57-30845 (57. 7. 1)	1138255 (58. 3.11)	塩化ビニルグラフト共重合体の製造方法	エチレン-酢酸ビニル共重合体の存在下でこれと塩化ビニルを重合させてエチレン-酢酸ビニル共重合体を1～20重量%含む塩化ビニルグラフト共重合体を製造するにあたり、エチレン-酢酸ビニル共重合体としてのメルトインデックスが0.1～200で、酢酸ビニルの含有量が10～50重量%であって、かつそのメルトインデックスおよび酢酸ビニル含有量がそれぞれ異なる二種以上のエチレン-酢酸ビニル共重合体と塩化ビニルとを重合させることを特徴とする塩化ビニルグラフト共重合体の製造方法。
15	47-35952 (47. 4.10) (崎山 和孝, 橋本 勉)	57-13812 (57. 3.19)	1138503 (58. 3.11)	屈折率濃度計	液体クロマトグラフィー用屈折率濃度計において、熱伝導性箔膜を介して、その両側面に長手方向に切り込みを有するガスケットを二つの膜状平行流路を構成するよう2個の金属ブロックで挟持させ、該金属ブロックにはそれぞれの一端において流液を取り入れる導入管を前記ガスケットの切り込みの一端に接続する穿孔を設け、かつその他端において該金属ブロックに密着している測定セルの一端と前記ガスケットの切り込みの他端を流通さす穿孔及び測定セルの他端と金属ブロックに設けられた排出導管を接続する穿孔をそれぞれ設け、被検溶液と基準溶液の二つの層状流路を近接して形成したことを特徴とする屈折率濃度計。
16	47-94159 (47. 9.21) (ピーター・ジョン・ニコラス・ブラウン)	57-25524 (57. 5.29)	1139719 (58. 3.24)	異性化方法	3・4-ジクロロブテン-1または1・4-ジクロロブテン-2を異性化する方法において異性化触媒として少なくとも1種以上の銅塩および一般式R-S-R' (ここでR, R'はアルキル, アリールまたはアルカリール基, また同素環または複素環でもよい) で示される有機硫黄化合物を用いることを特徴とする3・4-ジクロロブテン-1または1・4-ジクロロブテン-2の異性化方法。
17	48-34627 (48. 3.28) (ピーター・ジョン・ニコラス・ブラウン)	57-26246 (57. 6. 3)	1139728 (58. 3.24)	トリクロロブテンの製造法	1-クロロブタジエン-1・3を塩素化して1, 3, 4-トリクロロブテン-1を製造する方法において、触媒として塩化亜鉛を用いることを特徴とする1,3,4-トリクロロブテン-1の製造法。

№	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発 明 の 名 称	要 旨
18	49-75865 (49. 7. 4) (加藤 徹, 高橋 薫, 杉森 正敏)	57-32114 (57. 7. 8)	1139770 (58. 3.24)	高純度金属コバルトの 製造法	塩化コバルト 45~220 g/l, ほう酸 2g/l以上を含む pH 2~5 の溶液を電解浴とし浴温度 20~45°C で電解して金属コバルトを得ることを特徴とする高純度金属コバルトの製造法。
19	51-52111 (51. 5.10) (宮之原 勲, 宮崎 弘, 河村 秀雄)	57-31957 (57. 7. 7)	1139834 (58. 3.24)	第一鉄を含む硫酸酸性 水溶液の処理方法	主として第一イオンを含む硫酸酸性水溶液に、酸化マグネシウムまたは水酸化マグネシウムを加え、空気と接触させて第一鉄を酸化し、鉄の沈澱を析出させ、分離するにあたって、該水溶液に塩化第一鉄を存在させることを特徴とする第一鉄を含む硫酸酸性水溶液の処理方法。
20	51-101712 (51. 8.27) (辻内 孝文, 森下 悟, 新堀 圭介)	57-31451 (57. 7. 5)	1139840 (58. 3.24)	無機ガスの吸着方法	一種又は二種以上よりなる無機ガスをアミンアルカリ水溶液(A)、ケイ酸塩、鉄塩、亜鉛塩の少なくとも一種からなる水溶液(B)、アルカリ土類金属塩水溶液(C)より得られるアルミン酸アルカリ土類金属ゲルを 1,000°C 以下で焼成した $M^1O : M^2mOn : Al_2O_3$ (M^1 : アルカリ土類金属, M^2 : ケイ素, 鉄, 亜鉛, $m=1\sim 2$, $n=1\sim 3$) のモル比が $0.5\sim 10 : p : 1$ (ただし, p は $0 < p \leq 1$) の範囲のアルミン酸塩系吸着剤と接触させることを特徴とする無機ガスの吸着方法。
21	51-51327 (51. 5. 7) (松本 俣博, 斉藤 博行, 菊地 光雄)	57-35128 (57. 7.27)	1142904 (58. 4.13)	イットリウム族希土成 分の分離法	希土含有鉱石を硫酸で分解して得た分解泥状物を、その全希土量に対しナトリウムとして 0.5~5g 原子倍量の硫酸ナトリウムまたは/および塩化ナトリウムの水溶液中で 10~40°C において浸出し、固相を分離除去した後得られた水溶液相に対しさらに溶液中に存在する全希土量に対しナトリウムとして 4~7g 原子倍量の硫酸ナトリウムまたは/および塩化ナトリウムを加え 60°C 以上に加温して生成する固相を分離取得することを特徴とする希土含有鉱石からのイットリウム族希土の分離法。
22	53-114552 (53. 9.20) (朱山 秀雄, 森下 延男)	57-34847 (57. 7.26)	1142968 (58. 4.13)	エチレン重合体のカル ボキシル化方法	エチレン-酢酸ビニル共重合体、エチレン-酢酸ビニル共重合体ケン化物、高密度ポリエチレン、低密度ポリエチレン、中密度ポリエチレン、エチレン-プロピレン共重合体から選ばれるエチレン重合体の存在下、アクリル酸、メタクリル酸、マレイン酸、フマル酸、イタコン酸、無水マレイン酸、無水イタコン酸から選ばれる α, β -不飽和カルボン酸および/またはその無水物をエチレン、プロピレン、イソブテン、ブテン-1、オクテン-1、塩化ビニル、塩化ビニリデン、酢酸ビニル、ビニルクロロアセテート、アクリロニトリル、アクリル酸あるいはメタアクリル酸のアルキルエステルから選ばれる少なくとも一種のビニリデンモノマーの共存下又は非共存下に不均一系で反応させる際グラフト開始剤として、ジ(2,4-ジクロロベンゾイル)パーオキサイドを用いることを特徴とするエチレン重合体のカルボキシル化方法。

№	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発 明 の 名 称	要 旨
23	53-140439 (53.11.16)	57-34848 (57. 7.26)	1142972 (58. 4.13)	エチレン重合体のカルボキシル化方法 (朱山 秀雄, 森下 延男)	エチレン-酢酸ビニル共重合体, エチレン-酢酸ビニル共重合体ケン化物, 高密度ポリエチレン, 低密度ポリエチレン, 中密度ポリエチレン, エチレン-プロピレン共重合体から選ばれるエチレン重合体の存在下, グラフト開始剤を用いてアクリル酸, メタクリル酸, マレイン酸, フマル酸, イタコン酸, 無水マレイン酸, 無水イタコン酸から選ばれる α , β -不飽和カルボン酸および/または, その無水物をエチレン, プロピレン, イソブテン, ブテン-1, オクテン-1, 塩化ビニル, 塩化ビニリデン, 酢酸ビニル, ビニルクロアセテート, アクリロニトリル, アクリル酸あるいはメタアクリル酸のアルキルエステルから選ばれる少なくとも一種のビニリデンモノマーの共存下又は非共存下に不均一系で反応させる際に反応媒体として炭素数4~8の脂肪族第三級アルコールを用いる事を特徴とするエチレン重合体のカルボキシル化方法。
24	52-35234 (52. 3.31)	55-49538 (55.12.12)	1144874 (58. 4.26)	懸濁触媒系の反応方法 (真淵 俊介, 雲井 貞勝, 続木 建治)	液相で, 懸濁触媒を用いて連続的に化学反応を行うにあたり汚過器を内蔵した反応器を用いることにより, 反応器内で反応および触媒の分離を連続的に行うことを特徴とする懸濁触媒系の反応方法。
25	49-55333 (49. 5.17)	57-37613 (57. 8.11)	1147040 (58. 5.12)	クロロプレン重合体混合物 (シドニイ・ジョージ・フ ォッグ, デービッド・ジ ョン・ウオーカー)	ムーニー粘度 MLI+4' (100°C) 40ないし100を有する第1のベンゼン可溶性のクロロプレン重合体95%重量ないし85%重量%, および流体重合体をつくるためのジエチルキサントゲンジサルファイドよりなるキサントゲン改良剤のクロロプレン単量体の2ないし7重量%に相当する量の存在下にクロロプレンを重合せしめることにより形成せしめた第2の, 流体の, ベンゼン可溶性クロロプレン重合体5重量%ないし15重量%よりなることを特徴とするクロロプレン重合体混合物。
26	47-79846 (47. 8. 9)	57-25525 (57. 5.29)	1145787 (58. 5.12)	1,3-ジクロロブタジエン-2,3の製造法 (ピーター・ジョン・ニコ ラス・ブラウン, クリフ ォード・ウィリアム・カ ップ)	1-クロロブタジエンを塩素化し, 該塩素化生成物をアルカリ金属水酸化物の溶液を用いて, 脱塩酸することを特徴とする1,3-ジクロロブタジエン-1,3の製造法。
27	49-42753 (49. 4.18)	57-37530 (57. 8.10)	1147843 (58. 5.26)	クロム含有鉱石より塩化クロムと塩化鉄を製造する方法 (川上 登, 加藤 徹, 熊谷善四郎, 平野 逸雄)	クロム含有鉱石を還元して得る高炭素フェロクロムを塩酸で溶解抽出し, 抽出液に含まれる塩化鉄, 塩化クロムを分離回収する方法において 1) 前記抽出液中の鉄イオンを三面の鉄イオンとし 2) ついで有機中性リン酸化合物, 第1級アミン, 第2級アミン, 第3級アミン, 第4級アミンからなる群から選ばれた1種の有機質溶媒と三価鉄イオンを含む前記抽出液とを接触させて抽出液中の鉄分を前記有機質溶媒に移行させ

№	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発 明 の 名 称	要 旨
					3) 鉄分を含む有機質溶媒は、次いで水と接触させて水相に鉄分を移行させて回収し、鉄分を分離した抽出残液からクロム分を回収することを特徴とするクロム含有鉱石より塩化クロムと塩化鉄を製造する方法。
28	49-115654 (49.10.9)	57-40834 (57.8.30)	1147848 (58.5.26)	6,9,10-トリヒドロ-7-アルコキシカルボニル-8-ヒドロキシピリド [1,2-a] ベンゾ [d] ピリミジン-10-オンの製造法	1,4-ビス(アルコキシカルボニル)-2,5-ジヒドロキシ-1,4-シクロヘキサジエンと2-アミノピリジンとを溶媒中、酸の存在下で加熱することを特徴とする6,9,10-トリヒドロ-7-アルコキシカルボニル-8-ヒドロキシピリド [1,2-a] ベンゾ [d] ピリミジン-10-オンの製造法。
29	49-116209 (49.10.11)	57-40855 (57.8.30)	1147849 (58.5.26)	6,9,10-トリヒドロ-7-アルコキシカルボニル-8-アミノピリド [1,2-a] ベンゾ [d] ピリミジン-10-オン類の製造法	<p>一般式</p>  <p>で表わされる1,4-ビス(アルコキシカルボニル)-2,5-ジアミノ-1,4-シクロヘキサジエン類 (式中 R₁ は低級アルキル基である) と</p> <p>一般式</p>  <p>で表される2-アミノピリジン類 (式中 R₂ は水素又はメチル基である) とを溶媒中、酸の存在下で加熱することを特徴とする</p> <p>一般式</p>  <p>で表される6,9,10-トリヒドロ-7-アルコキシカルボニル-8-アミノピリド [1,2-a] ベンゾ [d] ピリミジン-10-オン類 (式中 R₁ 及び R₂ は前記と同じである) の製造法。</p>
30	49-135541 (49.11.27)	57-39167 (57.8.19)	1147852 (58.5.26)	亜硫酸ガスおよび窒素酸化物の処理方法	<p>1. 亜硫酸ガスと窒素酸化物を含む気体を窒素酸化物と選択的に気相酸化反応する酸化剤と反応せしめ、該窒素酸化物を二酸化窒素とした後、海水と気液接触させ、海水中に固定される窒素化合物並びに亜硫酸イオンを減少させることを特徴とする亜硫酸ガスと窒素酸化物を同時に処理する方法。</p> <p>2. 亜硫酸ガスと窒素酸化物を含む気体を窒</p>

№	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発 明 の 名 称	要 旨
					<p>素酸化物と選択に気相酸化反応する酸化剤と反応せしめ、該窒素酸化物を二酸化窒素とした後、海水と気液接触させ、海水中に固定される窒素化合物並びに亜硫酸イオンを減少させた後、該海水を pH 6.5 以上の状態で酸素含有気体と接触させることを特徴とする亜硫酸ガスと窒素酸化物を同時に処理する方法。</p>
31	54-26736 (54. 3. 9) (毛利 隆, 三浦 正道)	57-38677 (57. 8.17)	1147880 (58. 5.26)	3 価クロムメッキ浴	<p>1. 1) 3 価クロム0.01から飽和濃度, 2) アミノ酢酸, イミノジ酢酸, ニトリロトリ酢酸及びこれらの塩からなる群から選ばれた少なくとも 1 種を 3 価クロム濃度に対して 0.5~4 倍モル濃度, 3) 亜二チオン酸, 亜硫酸, 重亜硫酸, メタ重亜硫酸及びこれらの塩からなる群から選ばれた少なくとも 1 種を 0.0005モル~1モル濃度含んでなるクロムメッキ浴。</p> <p>2. 1) 3 価クロム0.01から飽和濃度, 2) アミノ酢酸, イミノジ酢酸, ニトリロトリ酢酸及びこれらの塩からなる群から選ばれた少なくとも 1 種を 3 価クロム濃度に対して 0.5~4 倍モル濃度, 3) 亜二チオン酸, 亜硫酸, 重亜硫酸, メタ重亜硫酸及びこれらの塩からなる群から選ばれた少なくとも 1 種を 0.0005モル~1モル濃度, 及び4) クロムと共析可能な金属を含んでなるクロムメッキ浴。</p>
32	54-164844 (54.12.20) (横溝総一郎, 藤木 時男, 佐藤 襄二) (日本ポリウレタン工業(株) と共願)	57-37463 (57. 8.10)	1147887 (58. 5.26)	複合積層フィルムの製造方法	<p>アクリル酸を10ないし60重量%含有するエチレン-アクリル酸共重合体と少なくとも一ヶ以上の活性水素を分子内に有するアミンおよび/またはアンモニア水との反応によって得た当該共重合体のアミン塩および/またはアンモニウム塩の水溶液あるいはエマルジョンを主材とし、この濃度を水、水溶性有機溶剤あるいはこれら有機溶剤と水との混合物で1ないし20重量%に調製した溶液に、水溶性エポキシ樹脂、尿素ホルムアルデヒド樹脂、ポリイソシアネートプレポリマーあるいはこれらの混合物の水溶液あるいは有機溶剤溶液を硬化剤とし、これら硬化剤を主材固形分100重量部当り固形分換算で2ないし40重量部を配合してなる水溶性あるいは自己乳化性熱硬化型重合体組成物をプライマーとして紙、セロファン、金属蒸着プラスチックフィルムあるいは金属箔にコーティングし、少なくとも 80°C 以上の温度で加熱乾燥したのち、ポリオレフィン、エチレン-ビニルエステル共重合体、その加水分解物、エチレン(メタ)アクリル酸エステル共重合体、エチレン(メタ)アクリル酸共重合体金属塩、カルボン酸変性エチレンポリマー、これら熱可塑性高分子のブレンド物あるいはホットメルト材を押し出しコーティングすることを特徴とする複合積層フィルムの製造方法。</p>

№	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発 明 の 名 称	要 旨
33	48-120692 (48.10.29)	57-41466 (57. 9. 3)	1152103 (58. 6.30)	p-ジイソプロピルベンゼンジヒドロペルオキシドの製法 (柳原 忠久, 古賀 俊国, 深堀建太郎)	<p>1. p-ジイソプロピルベンゼンを分子状酸素と接触させ、得られた反応生成液から p-ジイソプロピルベンゼンジヒドロペルオキシドを分離回収し、実質的に p-ジイソプロピルベンゼンおよび p-ジイソプロピルベンゼンモノヒドロペルオキシドからなる残液をリサイクルすることからなる p-ジイソプロピルベンゼンジヒドロペルオキシドの製造法において、該反応生成液から分離した油層を固形状のアルカリ金属水酸化物またはアルカリ土類金属水酸化物に接触させた後、p-ジイソプロピルベンゼンジヒドロペルオキシドを分離回収し、回収残液をリサイクルすることを特徴とする p-ジイソプロピルベンゼンジヒドロペルオキシドの製法。</p> <p>2. p-ジイソプロピルベンゼンを分子状酸素と接触させ、得られた反応生成液から p-ジイソプロピルベンゼンジヒドロペルオキシドを分離回収し、実質的に p-ジイソプロピルベンゼンおよび p-ジイソプロピルベンゼンモノヒドロペルオキシドからなる残液をリサイクルすることからなる p-ジイソプロピルベンゼンジヒドロペルオキシドの製造法において、該残液を固形状のアルカリ金属水酸化物またはアルカリ土類金属水酸化物に接触させた後、リサイクルすることを特徴とする p-ジイソプロピルベンゼンジヒドロペルオキシドの製法。</p>
34	52-7279 (52. 1.27)	57-45427 (57. 9.28)	1153488 (58. 6.30)	ジペプチド誘導体とアミノ酸誘導体との付加化合物及びその製造法	<p>1. 一般式</p> $R_3-\overset{\text{O}}{\parallel}{C}-\underset{\text{R}_2}{\text{CH}}-\text{NH}_2 \cdot \text{HO}\overset{\text{O}}{\parallel}{C}-(\text{CH}_2)_n-\overset{\text{R}_1}{\text{NH}}-\overset{\text{O}}{\parallel}{C}-\underset{\text{R}_2}{\text{CH}}-\text{NH}-\overset{\text{O}}{\parallel}{C}-\text{R}_3$ <p>で表わされ、実質的に一般式</p> $R_3-\overset{\text{O}}{\parallel}{C}-\underset{\text{R}_2}{\text{CH}}-\text{NH}_2 \cdot \text{HO}\overset{\text{O}}{\parallel}{C}-\overset{\text{R}_1}{\text{NH}}-\underset{\text{R}_2}{\text{CH}}-(\text{CH}_2)_n-\overset{\text{O}}{\parallel}{C}-\text{NH}-\underset{\text{R}_2}{\text{CH}}-\overset{\text{O}}{\parallel}{C}-\text{R}_3$ <p>で表わされる化合物を含まない化合物（両式中 R₁ は脂肪族オキシカルボニル基、核置換基を有することあるベンジルオキシカルボニル基、ベンゾイル基、芳香族スルフォニル基、又は芳香族スルフィニル基であり、R₂ はメチル基、イソプロピル基、イソブチル基、イソアミル基又はベンジル基であり、R₃ は低級アルコキシ基、ベンジルオキシ基又はベンズヒドロキシ基であり、n は 1 又は 2 である。）</p>

№	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
					<p>2. 第一の一般式中の</p> $ \begin{array}{c} \text{O} \\ \parallel \\ \text{R}_3-\text{C}-\text{CH}-\text{NH}_2 \\ \\ \text{R}_2 \end{array} $ $ \begin{array}{c} \text{R}_1 \\ \\ \text{NH} \\ \\ \text{HOOC}-(\text{CH}_2)_n-\text{CH}-\text{C}-\text{NH}-\text{CH}-\text{C}-\text{R}_3 \\ \parallel \quad \quad \quad \parallel \quad \quad \quad \parallel \\ \text{O} \quad \quad \quad \text{O} \quad \quad \quad \text{O} \\ \\ \text{R}_2 \end{array} $ <p>で表わされるジペプチドエステルとアミノカルボン酸エステルとの付加化合物(式中 R₁, R₂, R₃ 及び n は前記同様の意味である)の製造法。</p>
35	53-28223 (53. 3.14)	57-49066 (57.10.20)	1153513 (58. 6.30)	イソインドリノン系顔料組成物	<p>1. イソインドリノン系顔料とアニオン性界面活性剤の水不溶性あるいは難溶性無機塩とからなるイソインドリノン系顔料組成物。</p> <p>2. イソインドリノン系顔料にアニオン性界面活性剤を加えた水性スラリーへ金属イオンを添加してアニオン性界面活性剤の水離溶性塩を形成させ、さらに過剰の金属イオンを炭酸根、硫酸根あるいはリン酸根などの添加により水不溶性あるいは難溶性塩として不溶化し、次いで戸過乾燥することを特徴とするイソインドリノン系顔料組成物の製造法。</p>
36	54-59171 (54. 5.16)	57-45460 (57. 9.28)	1153531 (58. 6.30)	電解用非晶質合金電極材料	<p>1. Pおよび Si のいずれか1種あるいは2種10~40原子%を含み、残部は実質的に Pd, Rh および Pt の2種以上からなる電解用非晶質合金電極材料。</p> <p>2. Pおよび Si のいずれか1種あるいは2種10~40原子%を含み、かつ、Ru および Ir のいずれか1種あるいは2種20原子%以下を含み、残部は実質的に Pd, Rh および Pt の2種以上からなる電解用非晶質合金電極材料。</p> <p>3. Pおよび Si のいずれか1種あるいは2種10~40原子%を含み、かつ、Ti, Zr, Nb および Ta のいずれか1種または2種以上25原子%以下を含み、残部は実質的に Pd, Rh および Pt の2種以上からなる電解用非晶質合金電極材料。</p> <p>4. Pおよび Si のいずれか1種または2種10~40原子%を含み、かつ、Ru および Ir のいずれか1種または2種20原子%以下ならびに Ti, Zr, Nb および Ta のいずれか1種または2種以上25原子%以下を含み、残部は実質的に Pd, Rh および Pt の1種または2種以上からなる電解用非晶質合金電極材料。</p>
37	51-24693 (51. 3. 9)	57-31925 (57. 7. 7)	1155639 (58. 7.15)	ポーラスポリビニルアルコールハードゲルの製造方法	<p>1. ポアサイズを制御できる希釈剤の存在下に酢酸ビニルをジエチレングリコールジメタアクリレートあるいはグリシジルメタアクリレートを架橋剤として懸濁重合し、得られたポー</p>

№	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発 明 の 名 称	要 旨
					ラスポリ酢酸ビニルゲルをアルカリでケン化し、得られたポーラスポリビニルアルコールゲルをさらにエピクロルヒドリンで後架橋することを特徴とする水系ゲルパーミエーションクロマトグラフィ用ポーラスポリビニルアルコールハードゲルの製造方法。
38	51-56114 (51. 5.18)	57-13360 (57. 3.16)	1155641 (58. 7.15)	生物系スラッジの改質法 (宮之原 勲, 宮崎 弘, 河村 秀雄)	1. 生物系スラッジにマグネシウム化合物と鉄塩を添加することを特徴とする生物系スラッジの改良法。 2. 生物系スラッジにマグネシウム化合物と鉄塩を添加し, 更にアルカリ剤を添加して最終の pH を 9 以上に維持することを特徴とする生物系スラッジの改良法。
39	53-24576 (53. 3. 6)	57-243 (57. 1. 6)	1155673 (58. 7.15)	柱状次亜塩素酸カルシウム二水化物およびその製造方法 (村上 次雄, 菊地 光雄, 井川 一成)	1. 次亜塩素酸カルシウム二水化物の a, b, c 各軸の比が $0.5 \leq b/a \leq 2.0$ $c/a \geq 1.5$ であり, かつ c 軸が 5 ミクロン以上であることを特徴とする柱状次亜塩素酸カルシウム二水化物。 2. 次亜塩素酸カルシウム二水化物の晶出の際, カルボン酸, カルボン酸塩および炭水化物より選ばれた一種以上種類の媒晶剤の存在下, 次亜塩素酸カルシウム二水化物の a, b, c 各軸の比が $0.5 \leq b/a \leq 2.0$ $c/a \geq 1.5$ であり, かつ c 軸が 5 ミクロン以上である次亜塩素酸カルシウム二水化物を晶出させることを特徴とする柱状次亜塩素酸カルシウム二水化物の製造方法。
40	49-141490 (49.12.11)	57-53379 (57.11.12)	1157041 (58. 7.15)	クロロプレンゴム配合物の安定化方法 (小坂勇次郎, 兼重 洋右, 大腰島之助, 岸 昭雄)	レゾルシノール, メチレン供与体を含むクロロプレンゴム配合物中に, クロロプレンゴム 100重量部あたり 0.5ないし 10 重量部の一般式 $\text{HO}(\text{RO})_n\text{H}$ (但し, R; $\text{C}_2 \sim \text{C}_{20}$ のアルキレン基を示す, n; 1~1,000) で示されるグリコール類を添加混練することを特徴とするクロロプレンゴム配合物の安定化方法。
41	54-53411 (54. 5. 2)	57-48002 (57.10.13)	1157216 (58. 7.15)	白度の高いエチレン-酢酸ビニル共重合体ケン化物の製造方法 (大鶴 雅昭, 鈴木 祐二)	酢酸ビニル含量70重量%以下のエチレン-酢酸ビニル共重合体を加熱溶融混練状態において20重量%から飽和濃度までの苛性アルカリ水溶液を用いて苛性アルカリにて直接ケン化することを特徴とする白度の高いエチレン-酢酸ビニル共重合体のケン化物の製造方法。
42	54-83928 (54. 7. 4)	57-48007 (57.10.13)	1157218 (58. 7.15)	変性エチレン-酢酸ビニル共重合体ケン化物の製法 (朱山 秀雄)	エチレン-酢酸ビニル共重合体ケン化物と N-メチロールアクリルアミドおよび/または N-メチロールメタアクリルアミドとを触媒存在下に反応させるにおいて, 溶媒の非存在下, かつ該エチレン-酢酸ビニル共重合体ケン化物の加熱溶融状態下に反応させることを特徴とする変性エチレン-酢酸ビニル共重合体ケン化物の製法。